

- 問1 群馬県婦恋村などの標高が高い地域では、夏の平均気温が20度前後と、都市部と比較して非常に低くなっています。この冷涼な気候を活かして、夏から秋にかけてキャベツなどの野菜を栽培する農業の形態を何といいますか。 (2019年 滋賀県公立入試 類似)
1. 近郊農業                      2. 高冷地農業                      3. 施設園芸                      4. 促成栽培
- 
- 問2 食料の輸送が地球環境に与える負荷を評価する指標として「フードマイレージ」があります。この指標の仕組みと、日本の状況に関する説明として最も適切なものはどれですか。 (2020年 大分県公立入試 類似)
1. 食料の廃棄量に輸送距離を掛け合わせたもので、この値が大きいほど資源の無駄が多いことを示す。日本は食品ロス削減の取り組みが進んでいるため、フランスやドイツなどの農業国に比べてこの値が大幅に低くなっている。
2. 食料の自給率に輸送重量を掛け合わせたもので、この値が小さいほど国内での食料確保が困難であることを示す。日本は食料自給率が低いいため、この値を改善するために海外からの輸入量を意図的に減らす政策をとっている。
3. 食料の輸送量に生産地から消費地までの輸送距離を掛け合わせたもので、この値が大きいほど輸送に伴う燃料消費や排気ガスの排出による環境負荷が大きくなる。日本の値は、他の主要な先進諸国と比較して極めて高い水準にある。
4. 食料の生産コストに輸送時間を掛け合わせたもので、この値が小さいほど市場での価格競争力が強くなる。日本は地理的に大陸から離れているため、効率的な高速輸送網の整備により、この値を欧米諸国よりも低く抑えている。
- 
- 問3 1985年から2010年にかけての日本の豚肉供給に関する統計資料によると、国内の生産状況と輸入の動向には明確な特徴が見られます。この時期の動向を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 滋賀県公立入試 類似)
1. 食生活の変化に伴い国内生産量が急激に増加した一方で、安価な外国産の輸入量は1985年以降、一貫して減少が続けている。
2. 国内生産量は約90万トン前後でほぼ横ばいの推移となっているが、輸入量は2005年ごろまで大きく増加し、その後はやや減少している。
3. 国内生産量と輸入量はともに1985年から右肩上がりに増加しており、国内の供給能力が輸入を上回るペースで拡大している。
4. 国内生産量は養豚農家の減少により大幅に減少したが、それを補うために輸入量が2010年にかけて急増し、国内生産量の3倍に達した。
- 
- 問4 東京都中央卸売市場におけるキャベツの入荷量を確認すると、冬から春にかけては愛知県や千葉県からの入荷が中心ですが、7月から9月にかけては群馬県からの入荷が圧倒的な割合を占めます。群馬県でこのように夏場に集中的な出荷が行われる理由として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 滋賀県公立入試 類似)
1. 標高が高く夏でも冷涼な気候を利用して、平地での出荷が減る時期に合わせて収穫・出荷しているため
2. 平坦な土地が広がっており、大規模な機械を導入して一年中安定した量を生産する体制を整えているため
3. ビニールハウスなどの施設を利用し、本来の収穫時期よりも時期を早めて出荷する工夫をしているため
4. 大消費地である東京に隣接しているため、夏の暑さで傷みやすい野菜を短時間で輸送できるため
- 
- 問5 高度経済成長期以降の日本において、食生活の多様化や欧米化が進んだ背景とその影響について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2026年 山梨県公立入試 類似)
1. 政府が国民の肥満を防ぐために米の消費を推奨した結果、高度経済成長期には米の消費量が過去最大となり、肉類の消費は停滞した。
2. 都市部への人口集中により自炊が困難になったため、米や野菜の消費が極端に減り、代わりに魚介類の消費量が肉類を大きく上回るようになった。
3. 海外からの安価な農産物の輸入が完全に禁止されていたため、国内で生産しやすい野菜や果物の消費量が特異的に増加した。
4. 生活水準の向上や都市化の進展により、調理に手間のかからないパンや、肉・乳製品を用いた副菜が増えたことで、米の消費量は減少した。
- 
- 問6 2010年代半ば、佐賀県などの地方自治体においても外国人住民数が増加傾向にあり、特に2014年の約4300人から2015年には4500人を超えるなど、増加のペースが速まりました。このように、異なる国籍や文化背景を持つ人々が、地域社会の一員として共に生きていくための考え方を何といいますか。 (2018年 佐賀県公立入試 類似)
1. 社会保障制度                      2. 排他的経済水域                      3. 多文化共生                      4. 持続可能な開発
- 
- 問7 日本国内における生乳の流通と地域の関わりについて述べた文として、正しいものはどれですか。 (2022年 京都府公立入試 類似)
1. 関東地方では、人口の多い消費地に近接しているという立地条件を活かし、生産された生乳の多くが飲用向けとして出荷されている。
2. 北海道では、広大な牧草地で生産された生乳のほとんどが、液体の状態のまま東京などの大消費地へ飲用向けとして高速輸送されている。
3. 都市近郊の酪農家は、土地が狭く飼料の確保が難しかったため、生乳の生産ではなく子牛の育成と販売を専門に行っている。
4. 東北地方や九州地方では、生乳の生産量が関東地方より圧倒的に多いため、すべての生乳を一度バターに加工してから全国へ配送している。
- 
- 問8 太陽光発電や風力発電は、二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギーとして普及が進められていますが、火力発電と比較した際に、天候などの自然条件によって発電量が左右されるために生じる課題は何ですか。 (2018年 北海道公立入試 類似)
1. 放射性廃棄物の処理が必要になる                      2. 有害なフロンガスが発生する                      3. 電力の安定供給が難しい                      4. 燃料の枯渇が懸念される
- 
- 問9 日本では、金などの鉱物資源の国内産出量が、中国やオーストラリアといった主要な産出国に比べて極めて少ない状況にあります。このような背景から、廃棄された携帯電話や家電製品に含まれる有用な金属を回収し、再び資源として活用する取り組みを、ある場所に例えて何といいますか。 (2018年 愛媛県公立入試 類似)
1. リサイクル工場                      2. クリーンセンター                      3. 最終処分場                      4. 都市鉱山
- 
- 問10 日本の人口構成において、15歳未満の年少人口の割合を65歳以上の老年人口の割合が上回るようになった背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 高知県公立入試 類似)
1. 都市部への人口集中により、地方における老年人口の死亡率が急激に下がったため
2. インドや中国のような人口増加を抑えるための厳しい産児制限が導入されたため
3. 高度経済成長により乳児死亡率が上昇し、若年層の国外流出が続いたため
4. 医療技術の向上や生活環境の改善によって平均寿命が延び、出生率が低下したため
- 
- 問11 ある県における市町村立図書館の蔵書数が最も多い市で約67.6万冊、最も少ない町で約1.1万冊と大きな差があります。また、県立図書館の図書貸出の地区別比率を見ると、県立図書館が位置する市が93.8%を占めるのに対し、離れた県南地区は0.4%にとどまっています。これらの状況から分析できる、県立図書館が果たすべき役割に関する記述として最も適切なものはどれですか。 (2023年 宮崎県公立入試 類似)
1. 県立図書館が所在する市の住民の利用割合が非常に高いため、その地区の住民に限定したサービスを優先して拡充すること。
2. 各図書館における分類別図書貸出冊数の違いを分析し、貸出数の多い分野の図書のみを集中的に整備すること。
3. 市町村間の蔵書数の格差や利用者の地域的な偏りを考慮し、小規模自治体や遠方住民の読書環境を確保するための広域的な支援を行うこと。
4. レファレンス件数を増やすことを目的として、蔵書数の少ない市町村立図書館を廃止し、県立図書館へ集約すること。